

# 危険物新聞

第292号

発行所 財団法人 大阪府危険物安全協会  
 発行人 川井清治郎  
 大阪市西区西長堀北通1丁目  
 四つ橋ビル8階  
 TEL (531) 9717・5910  
 定価 1部 50円

## 乙種合格率47.5%

### 大阪府危険物取扱者試験

大阪府では3月24日危険物取扱者試験を実施したが、4月20日合格者を発表した。

合格率は甲種42.5%、乙種47.5%で、とくに乙種第4類は近年稀れな好成绩であった。

合格者には5月18日免状が交付される。

	申請者	受験者	合格者	合格率
甲種	781	751	319	42.5%
乙種4類	4,731	4,469	2,123	47.5%

### 次は7月頃

大阪府の次回試験は7月上旬頃の予定で、5月の連休明けには決定する見込み。

### 大阪府消防防災課長に笠岡氏

大阪府では4月1日付で人事異動を発令したが消防防災課関係は次のとおり。

▷消防防災課長 笠岡昭治(文書課長)▷老人福祉課長 富安育三(消防防災課長)▷消防防災課参事 高木昇(文化振興室参事)▷府立病院会計課長 山田雅章(消防防災課参事)

### 大阪市消防局長に深沢氏

大阪市では4月1日付で局部長級、4月10日付で課長級の人事異動が行われ、内山氏退職に伴う後任局長に深沢氏が発令された。又、局総務課長、東消防署長が正監に昇任した。

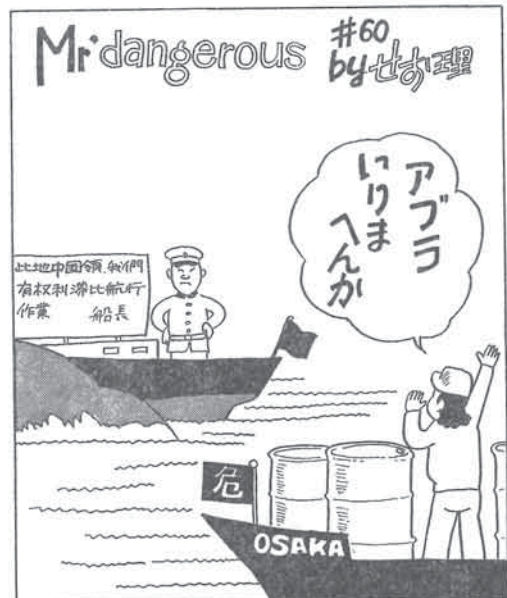
▷消防局長 深沢修(経理局長)〔略歴・昭和27年京大(法)卒〕  
 ▷任消防正監 局総務課長 酒匂憲之助 ▷同 東署長

### 山西朝男

▷警防部計画課長 消防監国本篤弘(警備計画課長)▷警防部司令課長 消防監高橋幹一(西成署長)▷警防部救急課長 消防監谷口幸雄(警防部主幹)▷任消防監・警防部主幹 司令長今西俊之(平野署長)▷任消防監・警防部主幹 司令長滝本京作(警備課航空隊長)▷北副署長 司令長田中隆夫(機動査察隊班長)▷此花署長 消防監大西輝和(救急課長)▷西署長 消防監東博人(警備課長)▷港署長 司令長林田肇(淀川副署長)▷南副署長 司令長黒川一夫(人事係長)▷任消防監・西淀川署長 司令長栄明(港署長)▷城東署長 消防監矢ヶ部俊高(西淀川署長)▷任消防監・鶴見署長 司令長八幡定年(鶴見署長)▷任消防監・阿倍野署長 司令長岡積勝雄(阿倍野署長)▷住之江署長 消防監国貞拳吾(此花署長)▷住吉署長 司令長倉田幸義(南副署長)▷平野署長 司令長吉田美次(北副署長)▷西成署長 消防監座波清秀(城東署長)▷総合計画局主幹 立石一男(住吉署長)▷土木局主幹 高橋毅(査察係長)

### 八尾市消防本部消防長に田守氏

▷八尾市消防本部消防長 消防監田守功二(署長)



# 危険物施設ではこんな火災や流出事故が

## ▷—昭和51年、危険物施設事故統計—◁

消防庁では、昭和51年（51年1月～12月）全国の危険物施設の火災、漏洩事故統計を発表した。これによると危険物施設関係の事故概要は次のようである。

危険物施設の被災施設数は166件で、損害見積額は248億6千万円、死者9、傷者179である。

166件の事故のうち、危険物取扱者の立会いがなかったケースが59件もあった。

出火原因に関係した危険物は、第4類が最も多く、なかでも第1石油類が61件、第3石油類が21件となっている。

出火月別では、11月22件、2月、7月が15件と続き、10月の6件が最小であった。

製造所別に出火要因を分類すると次のようになる。

### 危険物製造所等の火災発生要因別件数（51年度、全国）

製造所等の別	火災の発生要因	件数
製造所 (34件)	○ 修理作業中、溶接、溶断等の火花が危険物等に着火して火災となったもの	7
	○ 配管等の破損、溶接部不良等で、配管等から危険物が漏えいして火災となったもの	5
	○ 危険物取扱中、不注意で危険物又は危険物蒸気を漏えいして火災となったもの	4
	○ 不注意、機器の故障等により危険物が異常反応を起こし、爆発的に火災となったもの	3
	○ 貯蔵中の危険物の自然発火によるもの	2
	○ 電気設備の故障等から火災となったもの	2
	○ 不注意等により、配管等からガスが漏えいし、火花等を引火して火災となったもの	2
	○ 放火（不明火を含む）によるもの	2
	○ 保温材にしみ込んだ油の処理が不完全であったため、取扱再開と共に昇温して発火したもの	1
	○ ナフサが漏えいして自然発火したもの	1
	○ 綿埃が機械部分の摩擦熱で発火したもの	1
	○ ベルトコンベアのゴムが高温の石灰窒素に触れ火災となったもの	1
	○ 通気管から出される危険物蒸気が引火して火災となったもの	1
	○ ゴムホースを使用して攪拌釜にトルオールを注入中に静電気が発生してトルオールに着火したもの	1
○ 類焼によるもの	1	
屋内貯蔵所 (2件)	○ メチルエチルケトンパーオキサイドが漏えいして不純物に触れ、発熱して火災となったもの	1
	○ 類焼によるもの	1
屋外タンク貯蔵所 (7件)	○ 加熱ヒーターが露出し、かつ、ヒーターのサーモスタットが故障したため液温が上昇し、発生した蒸気が発火したもの	1
	○ 残油処理中に静電気が発生し危険物に着火して火災となったもの	1
	○ 定期点検のため、危険物の抜き取り作業中にポンプ設備から漏えいさせ、自然発火したもの	1
	○ 公害防止用のガス吸着剤として使用されていた活性炭の発熱により火災となったもの	1



製造所等の別	火 災 の 発 生 要 因	件 数
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タンク屋根部で採油中に漏洩した危険物蒸気が引火して火災となったもの</li> <li>○ タンクの定期点検のためタンクを開放し、排風機を使用してタンク内の蒸気を排出していたところ排風機のスイッチの火花が危険物蒸気に着火したもの</li> <li>○ 配管の油抜きが不完全な状態で修理したためガス溶断の火花が残油に着火したもの</li> </ul>	1 1 1
移動タンク貯蔵所 (11件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タンクに注油中に出火したもの</li> <li>○ タンク内の危険物の存在確認のためにコックを開放したため、漏えいした危険物が作業者の衣類の摩擦により発生した静電気を引火して火災となったもの</li> <li>○ タンク内を危険物を用いて洗浄中に何らかの火源により爆発的に火災となったもの</li> <li>○ 修理作業中の溶接の火花がタンク内に残存していた危険物蒸気に着火して爆発的に火災となったもの</li> <li>○ 作業ミスで危険物を漏えいさせたため火災となったもの</li> <li>○ 類焼によるもの</li> </ul>	2 1 1 1 1 5
屋外貯蔵所 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 修理作業中の溶断の火花が漏えいしていた危険物に着火し火災となったもの</li> </ul>	1
給油取扱所 (34件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給油作業中等に交通事故又は車両を誤って移動させたことにより、固定給油設備に衝突し、又は転倒させたため、油が漏えいし、火災となったもの</li> <li>○ 放火によるもの</li> <li>○ 事務所内等における煙草の火の不始末によるもの</li> <li>○ 電気設備の故障によりモーター等が過熱し、発火したもの</li> <li>○ 専用タンク又は簡易タンクに注油中、誤って油を漏えいさせたため、火災となったもの</li> <li>○ 事務所内の石油ストーブの火から火災となったもの</li> <li>○ 給油作業中に危険物蒸気が漏洩し、火災となったもの</li> <li>○ 事務所内で、ガソリンを入れた 1.8 ℓ ガラスびんを誤って破損したため、ストーブの火を引火して火災となったもの</li> <li>○ 空ドラム缶を逆さにして踏台とし、事務所の天井を清掃中、残存油が漏えいし、石油ストーブの火を引火して火災となったもの</li> <li>○ 事務所内のガスストーブから LPG が漏えいし、火災となったもの</li> <li>○ 放置された廃油かんから蒸気が発生し、何らかの火を引火して火災となったもの</li> </ul>	11 6 4 3 2 2 2 1 1 1 1 1
第一種販売取扱所 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 容器からびんへの小分け作業中に火災となったもの</li> </ul>	1
一般取扱所 (76件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボイラー、炉においてバックファイア、危険物の漏えい等により火災となったもの</li> <li>○ 危険物取扱中、不注意等により危険物又は危険物蒸気が漏えいして火災となったもの</li> <li>○ 焼入れ作業中、焼入れ油の油温の上昇により、火災となったもの</li> <li>○ 配管等の破損、溶接部不良等により危険物が漏えいして火災となったもの</li> <li>○ 修理作業中に溶接、溶断等の火花が危険物等に着火して火災となったもの</li> <li>○ 危険物を取扱中、異常反応を起し火災となったもの</li> <li>○ 油圧プレスによる作業中、火災となったもの</li> <li>○ 放火によるもの</li> <li>○ 電気設備の短絡によるもの</li> <li>○ グラビア印刷中、危険物が引火又は発火して火災となったもの</li> </ul>	14 12 9 8 7 3 3 3 2 2

製造所等の別	火災の発生要因	件数
	○ 危険物を詰替中、静電気等により火災となったもの	2
	○ タンク、配管のパージ中に火災となったもの	2
	○ アルミニウム粉を取扱中に火災となったもの	1
	○ 高炉から流出した溶銑が危険物に接触し火災となったもの	1
	○ 塗装後の廃ガス処理前の予熱中に火災となったもの	1
	○ ファンに付着した危険物が摩擦熱で発熱して火災となったもの	1
	○ 高温物が可燃物に触れ火災となったもの	1
	○ 移動タンク貯蔵所から地下タンクに注油中、火災となったもの	1
	○ サイロ内での木粉の粉じん爆発によるもの	1
	○ 類焼によるもの	2

## 危険物製造所等の漏洩発生要因別件数 (51年度、全国)

製造所等の別	漏洩の発生要因	件数
製造所 (9件)	○ 異常反応により漏洩したもの	2
	○ 配管の腐食によるもの	2
	○ 配管ジョイント部締め付けボルトの切損によるもの	1
	○ 中間タンクを冷却しなかったために内容物が急激に分解し、漏洩したもの	1
	○ 配管内の洗浄が不十分のまま切断したことによるもの	1
	○ バルブ切替操作が遅れたことによるもの	1
	○ その他	1
	○ その他	1
屋外タンク貯蔵所 (59件)	○ 配管の腐食によるもの	9
	○ フロート等の故障によるもの	8
	○ 配管の亀裂、破損によるもの	7
	○ バルブ操作の誤りによるもの	6
	○ タンク相互間バルブの締め忘れ又は締切不完全によるもの	5
	○ 付属設備等の取付け不完全によるもの	3
	○ 底板の腐食によるもの	3
	○ 雪、ブルドーザー等の荷重により弁が折損、溶接部が亀裂したことによるもの	3
	○ 何者かにバルブが開放されたことによるもの	3
	○ 受入作業中監視を怠ったことによるもの	3
	○ 配管に土石、矢板等の落下等により破損したことによるもの	3
	○ 配管内の洗浄が不十分によるもの	2
	○ 掘削機によりバルブが破損したことによるもの	1
	○ 残留量の誤認によるもの	1
	○ 消火器のふたがドレンバルブにあたり開放したことによるもの	1
	○ バルブの締め過ぎによりバルブに亀裂が生じたことによるもの	1
屋内タンク貯蔵所 (12件)	○ 配管の腐食によるもの	4
	○ スチーム配管の腐食孔からの漏洩によるもの	2
	○ 液面計の故障によるもの	1
	○ ポンプスイッチの切り忘れによるもの	1
	○ パッキンの切損によるもの	1
	○ 分岐バルブのゆるみによるもの	1
	○ タンク室に水が入り、タンクが浮き上り横転したことによるもの	1
	○ タンク室に水が入り、タンクが浮き上り横転したことによるもの	1

製造所等の別	漏 洩 の 発 生 要 因	件 数
	○ その他	1
地下タンク貯蔵所 (24件)	○ 受入量等取扱いの誤りによるもの ○ 配管の腐食によるもの ○ タンクの腐食によるもの ○ 沈下により配管に亀裂が生じたことによるもの ○ フロート又はフロートスイッチの故障によるもの ○ フォークリフトのツメ等で配管を破損したことによるもの ○ スチーム配管の腐食孔からの漏洩によるもの ○ その他	9 4 3 2 2 2 1 1
移動タンク貯蔵所 (25件)	○ 走行中に横転又は転覆によるもの ○ バルブ操作の誤りによるもの ○ 底弁の締め忘れ又は締切不完全によるもの ○ 注油口との緊結不完全によるもの ○ 給油管の破損によるもの ○ 作業中監視を怠ったことによるもの ○ 注油タンクを誤ったことによるもの ○ 走行中に前車のH鋼材があたってタンクに破損を生じたことによるもの	14 4 2 1 1 1 1 1
給油取扱所 (26件)	○ 受入量(残留量)の誤り又は未確認によるもの ○ 専用タンクに注油中、監視を怠ったことによるもの ○ 注油タンクを誤ったことによるもの ○ 給油中に車が移動したことによるもの ○ パワーシャベルにより配管が破損されたことによるもの ○ 給油ホースが離脱したことによるもの ○ 給油ホースの弁を開いたままで電源を入れたことによるもの ○ 給油ホースに亀裂があったことによるもの ○ タンクの腐食によるもの ○ 計量機に車が衝突したことによるもの ○ その他	11 3 2 2 1 1 1 1 1 1 1 2
移送取扱所 (7件)	○ 配管の腐食によるもの ○ バルブの締め忘れによるもの ○ 注油ホースの離脱によるもの ○ フランジ部ガバナーの亀裂によるもの ○ その他	2 2 1 1 1
一般取扱所 (32件)	○ バルブ操作の誤りによるもの ○ 注油中又は操業中に監視を怠ったことによるもの ○ サービスタンクのフロートの故障又は不作用によるもの ○ 配管の腐食によるもの ○ ホースに亀裂が生じたことによるもの ○ ポンプのシール部等が亀裂、破損したことによるもの ○ タンク溶接部に亀裂が生じたことによるもの ○ オイルセパレーターの清掃不良によるもの ○ 計量機がトラックにより倒されたことによるもの ○ 注油ホースの緊結不良によるもの ○ 異常反応によるもの ○ スチーム配管の腐食孔からの漏洩によるもの ○ その他	8 5 3 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 4



## 危険物等かん定結果一覧

この一覧表は、業界等から提出された資料を、大阪市消防局で引火点等の測定を行い、鑑定したものです。なお、資料名は依頼者から提出されたもので、資料名の裏付定性分析等は行われていません。

## 大阪市消防局

試料名	引火点(°C)	燃焼点(°C)	該当品名	備考
アミゾール CDE	18.4	19.3	第3石油類	
α-油	23		第2石油類	発火点 285°C
AC接着剤	6.5	10	第1石油類	
SK-W 0702	—	—	非危険物	水溶性ホワイト塗料
F-1 ジメチルアニリン混合液	85	96	第3石油類	
ASCA. BAKE. AM #200黒(A)	—	—	非危険物	
ASCA. BAKE. AM #200黒(B)	—	—	〃	
S-GH ハイスチールグリット混合物	100メッシュ通過 量63.7%(重量)	—	第2類金属粉B	
S-GH ハイスチールグリットNo. 30	—	—	非危険物	
HILACK TA-D	61.5	87	第2石油類	発火点 460°C
エポルジョン EA-2	33	93	〃	
AMCD-D-White BCX-7082	—	—	非危険物	
クリモトコートWR	—	—	〃	
クレンゾル	39	45	第2石油類	
KT 500B	—	—	非危険物	
Kクリーナー HB No. 2	85		第3石油類	
コートマーキングインキ KSI-50	26	30	第2石油類	
コボンEM 塗料液	—	—	非危険物	
コボンEM 硬化剤	—	—	〃	
ゴム揮	-14.5	-10	第1石油類	
合成接着剤 (スプレー用)	-18	-13	〃	
合成接着剤 (ハケ、ぬり用)	-1.9	-12	〃	
ゴム糊	-20	-20	〃	
3300A	23	30	第2石油類	
さく酸エチル	-6.0	2.0	第4類さく酸エステル	
シクロヘキサン	17.9	-4	第1石油類	
スワフルードH	-18	—	非危険物	
スプラサイド	—	190	〃	発熱量 4440 cal
セブンフロア-UT	—	—	〃	
セブンシンナー	—	—	〃	

試 料 名	引火点 (°C)	燃焼点 (°C)	該 当 品 名	備 考
TOCNyl <sup>1</sup> BCX-7163	—	—	非 危 険 物	
トルオール	5.0	9.5	第 1 石 油 類	
DIA-605F-1 (界面活性剤)	—	—	非 危 険 物	
DDVP50%乳剤	31.5		第 2 石 油 類	
ネオVPテックス油剤	60		〃	
ネオVPテックス乳剤	37.5		〃	
ノルマルヘキサン	-20	-20	第 1 石 油 類	
ハイデス油剤	58		第 2 石 油 類	
PAXOLE 1007	262	289	第 4 石 油 類	
PEGと水との混合物95.5	—	—	非 危 険 物	
PEGと水との混合物(90:10)	—	—	〃	
PEGと水との混合物(85:15)	—	—	〃	
PEGと水との混合物(80:20)	—	—	〃	
(PEG+α)と水と混合物	—	—	〃	
BB #1000	326	360	動植物油類	チョコレート原料
吹付インク (ラムインク)	-1.8		第 1 石 油 類	
フェロマンガ	100メッシュ通過 量90.5% (重量)		第 2 類金属粉 B	鉄24.4% マンガン75.6
フェロニオビウム	—	—	非 危 険 物	
フェロシリコン	—	—	〃	
フェロモリブデン	—	—	〃	
フェロタングステン	—	—	〃	
変性アルコールエキネンFM	13.5		第 4 類アル コール類	発火点 440°C
変性アルコールソルミックスA3	12		〃	発火点 430°C
ペンギンセメント #383	—	—	非 危 険 物	
β-油	6.3		第 2 石 油 類	発火点 295°C
マルカゾール	50.5		〃	発火点 570°C
マルジノン乳剤	45		〃	
水、グリセリン混合物(水5%グリセリン95%)	193		第 3 石 油 類	
水、グリセリン混合物(水15%グリセリン85%)	—	—	非 危 険 物	
水、グリセリン混合物(水25%グリセリン75%)	—	—	〃	

**YAMATO** 業界のトップメーカー/最高の品質をお届けします

消火器・消火装置・警報装置・避難設備

# 信頼のヤマト

A P C 中央警報システム  
各種消火器  
消火栓設備

スプリンクラー設備  
水噴霧消火設備  
ドレンチャー設備

連結放水設備  
連結送水管  
粉末消火設備

タンパク泡消火設備  
プロフォーム消火設備  
ライトウォーター消火設備

二酸化炭素消火設備  
ハロゲン化物消火設備  
自動火災警報設備

漏電火災警報器  
非常放送設備  
誘導灯 誘導標識

排煙処理設備  
救助機 縦旋機  
避難梯子

防炎剤  
吸油剤  
流出油処理剤

■ 防災のシステムメーカー **ヤマト消火器株式会社** 大阪市東成区深江北 1-7-11 TEL: 06-976-0701代



## あらゆる消防設備・設計・施工

非常扉の自動開錠装置  
 防火扉・危険物貯蔵所等の自動閉鎖装置 } YMオートアンロック  
 泡・ガス・エア－ホーム消火装置

YM式オートアンロック西日本総括  
 齊田式救助袋 近畿地区  
 日本ドライケミカル(株)  
 ヤマト消火器(株) } 代理店

株式会社  
**三和商会**  
 TEL 06 (443) 2 4 5 6

## 保安用品と消火装置

総合防火商社  株式会社 **マルナカ**

大阪市北区中崎西4丁目2番27号 TEL 371-7777(代)  
 支店 東京・神戸


安全な社会環境づくりに奉仕する

日米特許

近代社会の繁栄は  
 産業・文化の発展に  
 支えられたものであると同時に  
 〈防災〉によって支えられたもの。  
 防災事業が果たす役割とは――  
 『ハツタの自覚』の原点。



消火器・消火装置の総合メーカー

 株式会社 **初田製作所** 本社・工場 大阪府枚方市招提田近3-5 〒573 電話 0720-56-1281(代)  
 大阪支社 電話 06-473-4871~4  
 堺出張所 電話 0722-21-3444



消防機器の  
 トップ・メーカー

消防自動車から消火器まで



**森田ポンプ株式会社**

本社 大阪市生野区小路東5-5-20  
 ☎ 06 (751) 1 3 5 1 (大代表)